

2009年1月6日

イビデン株式会社 竹中社長の年頭所感

2009年1月6日午前8時より、各事業場に全役員が出向き、社員を前に竹中社長が年頭の挨拶を行いました。また、テレビ会議システムを利用し、海外拠点(フィリピン、北京、フランス、ハンガリー)との新年互礼会も執り行いました。

\*\*\*\*\*

新年あけましておめでとうございます。

世界経済は、100年に一度といわれる不況の中にあり、順調に拡大を続けてきた世界の電子機器や自動車、建設など、当社がかかわるほぼ全ての業種で市場が、大幅に縮小し始めました。

当社も昨年11月上旬より緊急対策を推し進めて、あらゆる経費の削減に取り組んでまいりました。社員の努力でかなりの成果につなげましたが、実態経済の落ち込みは、想像をはるかに超える規模と速さで進んでおります。

このような状況の中で、今年、当社は以下の3つの対応を進めてまいります。

1つ目は、昨年の緊急対策より、さらに高い目標の生産性や歩留まり改善に挑戦し、そして、実行のスピードを早くすることです。社員一人ひとりが各々の役割を担い、何としても不況から脱出できるようにしたいと思います。

2つ目は、現在の各事業の置かれている状況やリスクを徹底的に分析し直し、需要が少ない中でも勝ち残れるレベルまでコスト競争力を強化することです。

事業の競争力強化は、昨年から全社展開しており、顧客満足度向上に関して、かなりの成果が出始めました。イビデンの競争力を生み出す基盤活動になりつつあり、今年、この活動を進めると同時にコストダウン活動を格段に強化させたいと考えます。

市場が低迷を続ける中でも需要が見込めるのは、新興国向けのローエンド市場であり、コストを制するものが市場を制し生き残る事ができます。各事業部において、コストハーフを最重要課題として取り組んでほしいと思います。

3つ目は、新製品の早期事業化のための全社プロジェクトチームの発足です。

中期経営計画「Global IBI-TECHNO 100 Plan」では2010年から新たな事業を立ち上げ、経営目標の達成に注力する期間としています。今年、電子やセラミック、環境の開発テーマや関係会社の有力事業の中から全社プロジェクトに指定し、リソースを集中させ、事業化を目指したいと考えます。

これら3つの方策を早急に押し進めることにより、今年、事業の安定に努め、そして2010年からは新規事業の立ち上げで再び事業の拡大を目指したいと思います。

イビデンは今年創立97周年を迎える大変伝統のある企業です。これまで数知れない難局を乗り越えてきました。苦しいときこそ益々団結する「イビデン精神」で、全員でこの難局を乗り越えたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後に、今年一年、大変厳しい環境の中ではありますが、健康で元気に明るく働けること、そして、当社グループが一刻も早くこの不況から脱出することを祈念いたします。

以上